



【アマモ苗植え】

日 時：令和6年6月9日（日）
9：30～11：30
場 所：折立海岸 小涼
スタッフ：南三陸町自然環境活用センター



昨年の8月に種の仕分けをして、11月に調査隊のみんなが植えたアマモの種が成長したので、みんなで戸倉(小涼)の海岸へ苗を植えに行ってきました。

☆アマモってなに？

アマモは浅瀬に生息する海の植物「海草」で、小魚や甲殻類などの棲みかになるだけでなく、海をきれいにし、また光合成により二酸化炭素を吸収して酸素を作るなど、海の生き物だけでなく私たちにとっても大切な植物です。また、地球温暖化をおさえるブルーカーボンとしての役割もあります。

まずはセンターでアマモについてのお話を聞きました。



☆アマモを植えに行こう!!

活用センターから海岸まで、みんなでアマモの苗を一生懸命運びました。元気に育ってくれるといいですね!!



☆アマモの苗が育つまで

①アマモの花枝（受粉後の花）を収穫します。



アマモの花



受粉後の花枝

②花枝をタンクに收容して、アマモの実が成熟して落ちるまで待ちます。 →



③2023年8月26日、おおさき生きものクラブのみなと一緒に成熟したアマモの実を拾い集めました。



④2023年11月16日、土を入れたポットにアマモの種を植えました。



⑤その後、ネイチャーセンター前のタンクで苗を育てました。



☆ブルーカーボンってなに？

森林など陸上の植物が吸収し貯留する二酸化炭素：CO₂（正確にはCO₂由来の炭素）を「グリーンカーボン」と呼ぶことがあります。それに対して、海藻や海草など海の植物によって吸収・貯留されるCO₂を「ブルーカーボン」と呼んでいます。海藻や海草の一部は、海底の地中に埋もれたり、深海に運ばれたりして、分解されずに長い間留まる（貯留される）ことがわかってきました。海藻の森や海草の草原である「藻場」を守り、増やすことは、地球温暖化を防ぐことにもつながるのです。

